

2014年7月

●品川区環境情報活動センターの親子講座（2014年7月6日）

7月6日(日) 品川区環境情報活動センターにおいて、当協会の理事である奥村実氏が親子講座(約2時間)を行いました。対象者は品川区在住の親子15組み計31人でした。講座はまず、「新エネルギーと風力発電機づくり」について、奥村理事から説明があり、その後、子供たちと保護者の皆さんで、なぜ地球温暖化が起きているのかを一緒に考えました。次の「電気ってなに?」の体験コーナーでは、風車を回す実験、ミニカーを走らせる実験、電気分解やデジタル時計が時を刻む実験を行ないました。実験に際し、講師からはどのようにしたら動くかなどについては、ヒントしか与えませんでした。しかし、子供たちは自分たちで考えながら工夫をし、それぞれの実験に取り組み、眼を輝かせていました。



●第5回事務局会議（2014-7-16）

7月16日(水)17:00~18:30 番町ハイム101会議室で事務局会議がおこなわれ、現状の各プロジェクトの進行状況・課題、見学会スケジュール、今後の情報交換会テーマなど幅広い議論がなされました。

●REPA 情報交換会 笹田政克氏講演（2014年7月16日）

7月16日(水)19:00~21:00 麴町区民館にて、[地中熱利用促進協会](#) 理事長笹田政克氏の講演会が行われました。地下10m以上の深さの温度は年中一定(≒平均気温 東京で17℃)でこの温度差(=気温-地中温度)をヒートポンプ等で利用するのが地中熱利用です。東京都だけで地中熱のポテンシャルは、2100億kWhあり電力使用量900億kWhに比べても膨大なことがわかります。地中熱の特徴は、場所、時間の制約がなくどこでも、昼夜一年中利用できるが、発電には向いておらず、熱利用が主体です。通常のエアコンに比べ40%程度の節電が可能ですが、地中を掘削するため初期コストが高いのが普及を妨げています。

最近、エネルギー基本計画にも組み込まれました。コストを下げるため、様々な技術開発にも取り組んでいます。実施例では、東京スカイツリー、小田急電鉄トンネル下(東北沢駅舎で利用)、KITTEビルなどの大規模のものから、コンビニ、住宅などがあり、今後は公共施設、病院、介護施設などが有望です。また、農業用ハウスに利用した例もあります。日本は、累計1000件程度で、欧米、中国に比べ大幅に普及が遅れていましたが、環境評価や導入のためのガイドライン、設計標準等も整備されつつあり、各省庁からの補助金もつくようになり今後の普及が期待されます。講演後も活発な質疑が交わされ地中熱の理解を深めることができました。



●再生可能エネルギー学習会（2014年7月17日）

当協会では再生可能エネルギーの理解を深めて戴くための啓蒙活動に取り組んでおりますが、この度復興支援で協働している福島県伊達市小国地域で出前授業をおこないました。

7月17日（金）13:30から15:30福島県伊達市小国小学校にて、同校の5、6年生13名に対し、岩手大学工学部 電気電子・情報システム工学科 高木浩一教授が講師としてエネルギー環境出前授業を行われました。当協会より奥村理事、小国地区交流館より大沼氏、村松氏がスタッフとして参加しました。授業は、講師からエネルギーについてクイズ形式で出題され、生徒たちはグループ討議で発表しました。その後、光とエネルギーの実験、ソーラーランタンの工作を行いました。授業終了後、生徒達からは、エネルギーの種類や使われ方、電気の作り方がわかり楽しかったとの感想がありました。小国小学校の校長先生始め先生方も、子供たちの真剣な眼差しと仲間と助け合いながらの工作に向う姿勢に感動していました。



グループ討議



ペットボトルを利用したソーラーランタンの製作

●霊山プロジェクト（2014年7月26日）

霊山プロジェクト会議は7月26日（土）に霊山で行われました。

- ①常盤井氏による柿の木の除染方法の紹介と、現地の適用可能性の検討
- ②小谷津氏による豆腐を活用した新商品化構想の検討
- ③水田除染土壌サンプル処理、竹炭基礎試験サンプル作り
- ④メタン発酵設備の整備状況、エネルギー資源作物としてのデントコーン資源作物の作付等の活動がおこなわれました。